

大腸ファイバー体験記

検査を受けて
本当に良かった。



人間ドックの便潜血（検便）検査で二本中一本に陽性が出た。これは、大腸などにできたポリープやガンなどから出血している可能性が高い事を示している。自覚症状もないので二次検査をしなくても大丈夫だろうと思ったが、念のために大腸ファイバー検査（お尻からカメラを入れて大腸の様子を見る内視鏡検査）を受ける事にした。

下剤を飲む

看護師さんが「この下剤を5〜10分おきにコップ一杯ずつ飲んでください。」と、夏に冷蔵庫で麦茶を冷やすような大きな容器を持ってきた。恐る恐る口に含んでみた。ゴクリ：スポーツドリンクみたいで意外と飲みやすい。これなら飲める。しかし、約2リットルの下剤、午前中いっぱいには飲み続けなくてはならないようだ。

内視鏡室へ

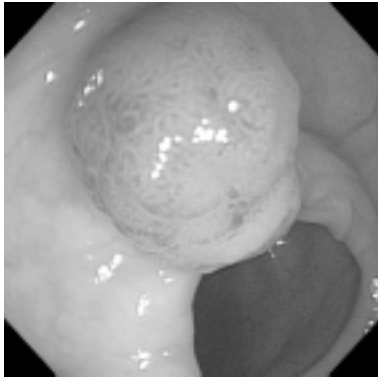
下剤を飲みながらトイレに通う事5〜6回。「便はどうですか？」と看護師さん。「おしっここのようになりますよ。」と告げると、そろそろ始めましょうと、内視鏡室へ案内された。

「靴下、上着を脱いで、このパン

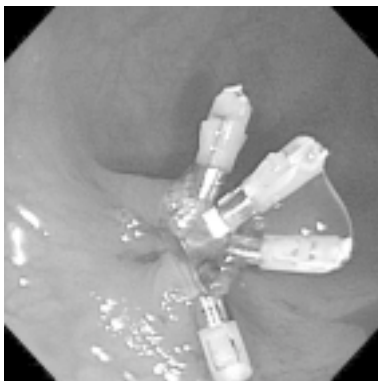


▲後に穴の開いた検査用パンツ。お尻を出すことなく検査できたので恥ずかしくなかった。これはスグレモノ。

ツに履き替えてください。」と看護師さんがパンツを拡げて見せ、「穴が開いている方が後ろですよ。」と手渡してくれた。なるほど、これなら大切なところが隠れるので恥ずかしくない。かな？
診察台に横たわると、ドクターから「痛み止めを打ちますか？」と聞かれる。何せ初めての体験なので返答に困る。
外見に似合わず、小心者の痛がり屋と思われるのも癪に障るので「大丈夫ッス！」と返事をした。



▲結腸にできた1cm大のポリープ。大きくなるとガン化する可能性があるとのこと。



▲ポリープ切除後にクリップで処置。4mm程のもので、傷が治ると自然にはずれるとのこと。

とても心細かったが「痛かったら痛み止めを打ちますから」と言われて安心した。

検査開始

お尻の入り口にゼリーを塗られると、ズルッとカメラが入ってきた。「空気を入れながら進みます。おなからは我慢しないで、遠慮せずに出してくださいね。」とドクター。

カメラは大腸の中を行ったり来たり、蛇腹をたくるように進んでいく。モニターには私の内臓が鮮明に映し出されていた。

「腸が長く、曲がっているの痛いかもしれませんよ。」とドクターから一言。

相当の痛みを覚悟したが、下痢腹の中程度の痛み。これくらいなら平気だ。痛み止めを打つ事もなく検査は順調に進み、カメラは盲腸付近の

終点へ到着した。カメラはここで折り返し、戻りながら大腸の中を詳細にチェックしていく。

私は、「きれいな腹の中だ、やっぱり何もなかったんだ」と、ホッとしながらモニターを見ていた。

ポリープ切除

突然、ドクターが手を止め、「ポリープがありますので取りますね。」と言った。

モニターを観ると大きなポリープが映し出されていた。

私は「…これから取るの？痛いのかな？苦しいのかな？」と不安になりながらモニターを覗きこんでいた。

すると、スーッと黄色の細いワイヤーが伸びてきて、ポリープを捕えた。あっけなくポリープが焼き切れポロリと落ちた。ジュジュジュと焼けて煙が出たが、不思議なことに

痛くも痒くもない。

「クリップします。」とドクター。今度はピンセットのような物が出てきて傷口をつまみ、ポチッとクリップを取り付けた。傷口が癒える（い）と自然にはずれるとのこと。

最後は、泡だて器のような物で、落ちたポリープを拾い内視鏡が戻ってきた。

スバイ映画の秘密兵器のように次から次へと機器が出てきて、魔法のように処置を施す。痛くも痒くもなく、まるで他人事のような、あっという間の出来事だった。

検査後

着替えを済ませドクターの前へ。「結腸にあった1センチほどのポリープを取りました。良性と思われるが病理検査へ回します。」とドクターが話してくれた。

看護師さんからは「検査して本当に良かったですね。」と言われた。

「良い訳ないじゃん。何も無いのが一番なのに…」と、ふくれっ面で見ると、ドクターが「放って置くと、大きくなってガン化することがあります。」と教えてくれた。

自覚症状もなかったもので、自分にポリープがあるなんて夢にも思わな

かった。放って置いたらガンになっていたかもしれない…。

今まで大した病気もせず40年間過ごしてきたが、そろそろ体のケアを考えないといけない時期に来たようだ。

看護師さんの言うとおり、検査して本当に良かったのだ。

改めて健康であることの大切さを考えさせられた一日だった。

胃腸の調子の気になる方はもちろんのこと、症状がなくても定期的に検査を受けることをおすすめします。お気軽にかかりつけ医、または美濃病院（☎33・1221）までご相談ください。



▲今回、検査をしてくれた岩城ドクター（美濃病院内科診療部長）日本消化器内視鏡学会の指導医である。

美濃病院の消化器内科では、最新内視鏡システムにより「苦痛の少ない」「繰り返し受けていただける」検査の提供に努めています。

※検査方法、時間、術式などは個人差があります。